

1200万署名・NPT代表派遣 News

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 FAX:03-5842-6033

Eメール antiatom55@hotmail.com 2010年3月4日 No.34 NPT開幕まであと61日

2010年3・1ビキニデー日本原水協集会ひらく

5月ニューヨークへ 署名もちよろう

「NPTニューヨーク行動の成功を - 2010年を『核兵器なき世界』の転換点に 核も基地もないアジア・太平洋を」をテーマに2月28日、日本原水協全国集会在静岡市でおこなわれました。全国から1200人が参加し、被爆国の国民の核廃絶の願いと意思を国連に届ける「核兵器のない世界を」署名1200万筆をやりきろうと決意を固める集会となりました。

基調報告に立った高草木博日本原水協事務局長は「日米政府が『核抑止』論に立つ中、国連総会では核兵器禁止条約の交渉開始提案に124カ国が賛成している。核保有国に決断を迫る大きな運動をつくろう」と訴えました。

アメリカフレンズ奉仕委員会のジョセフ・ガーソンさんは「オバマ政権の最優先課題は、核不拡散であり核廃絶ではない。しかし核兵器廃絶条約の可能性が、米国の主流論壇にも登場するなど変化も生まれている」と指摘。「NPT再検討会議に世界中から動員し、圧力をかけることが重要」と強調し「日本から多くの活動家に来ることは、私たちアメリカの平和勢力を勇気付けています」と発言しました。

グアム平和正義連合会長のリサリンダ・ナティビダドさんが米軍の基地を抱えたグアムの実情を、韓国進歩新党副代表のチョン・ジョングォンさんが朝鮮半島非核化にむけて韓日米の関係について、それぞれ発言しました。

日本各地の代表から多彩な草の根の運動が報告され、NPTニューヨーク行動に参加する高校生のグループ「ダンス ヒーロー S」のパフォーマンス(写真)には、集会参加者が手拍子で応え、会場がひとつになりました。

問題解決のためには基地なくすしかない実感(参加者の「感想と決意」から)



発言するリサリンダさん

たくさん学びましたが、特に印象に残ったことは、海外代表のリサリンダさんがお話された、米軍の基地を抱えたグアムの実情です。アメリカがマーシャル諸島で行った核実験の被害を受けていること。基地の中と外との格差の問題等の報告に続いて、沖縄から海兵隊が移転してくるに当たって、基地として使用する土地や飲料水の問題まで発生しているという報告はとても衝撃的でした。私は沖縄の普天間基地の移設先の話を知ったとき、海兵隊がグアムに異動するんだとしたら、基地もついでにグアムにもって行けばいいと思っていました。グアムはアメリカだと思っていましたから。今回の報告を聞いて、基地を移設しても、その被害にあう場所を変えるだけということがはっきりわかりました。基地問題を解決するためには、移設するのではなく、無くすしかないという事がはっきりわかりました。

(福岡エフコープ労組・男性)



最新情報はコチラ 原水協通信 blog | <http://www.antiatom.org/g-news/>
携帯電話からもアクセスできます。

焼津市長がニューヨークへ署名届けると決意表明 3・1ビキニデー集会



被災56年2010年3・1ビキニデー集会は3月1日、焼津市文化センターに1500人が参加して行われました。

清水泰（ひろし）焼津市長が「市民の署名を持ってニューヨークに行く。広島・長崎につぐ水爆の犠牲者を出した本市として今後も核兵器廃絶にむけ頑張る」とあいさつし、会場から大きな拍手がおくられました。

海外代表とのリレートークでは、私たちの共通の目標、核兵器のない世界を実現する上で、各国の優先課題は何か、日本の運動に何を期待するか、という2つの質問に、海外代表が答えました。1つ目の質問に対する答えの要旨を紹介します。

（質問1）

私たちの共通の目標、核兵器のない世界を実現する上で、各国の優先課題は何か。

（ジョゼフ・ガーソン）

今、アメリカの政治の舞台、ホワイトハウスやペンタゴンの中では、アメリカの核政策をめぐる、熾烈な議論が繰り広げられています。オバマ大統領がブラハでおこなった演説の方向に、今までのアメリカの核政策を少しでも変えることができるのか、ここに焦点があるわけですが、私は、今日までの経験をいかして、アメリカに帰ったらぜひホワイトハウスに、そのブラハで演説したような方向で、政策が少しでも動くように、アメリカ国内で運動を強めたいし、皆さんをこれからニューヨークでお迎えするわけですから、そこで皆さんとともに、そういう平和と正義に向かって、アメリカの政策が本当に変わっていくよう声をあげていきたいと思えます。

（リサリダ・ナティビダド）

グアムは率直に言って核兵器の問題についてはあまり関心が高いとはいえません。ですから私は帰って2つのことをやりたいと思っています。1つは、皆さんと同じようにニューヨークに代表を派遣したいということ。それから2つ目には、マーシャルのアバッカさんとも協力して、グアムの人たちがマーシャルの人たちと連携をして、交流をして学んで、次のこのような機会には必ずもっと大きな代表団で参加したいということ、この2つのことをやりたいと思っています。

（チョン・ジョングオン）

2つ申し上げたいと思います。1つは、北朝鮮核問題を対話と交渉を通じて平和的に解決すること、もう1つは、韓国の場合、アメリカの軍事同盟に依存している、そういうアメリカの核とか、アメリカの軍事同盟に依存しているという安全保障のあり方を変えることがもう1つの課題ではないかと思えます。

焼津市民合唱団や朗読劇のかざぐるまが初出演するなど市民との共同が広がりました。主催者あいさつしたビキニデー静岡県実行委員会の川本司郎代表委員（静岡県原水爆被害者の会会長）は、静岡県内でも7割の首長が「核兵器のない世界を」署名に賛同し、県の非核宣言が採択されたことを紹介。原水爆禁止世界大会実行委員会の野口邦和運営委員会代表が、集会を起点に「核兵器のない世界」へうねりをつくろう、と呼びかけました。

アメリカの水爆実験で被ばくした第五福竜丸の元漁労長、見崎吉男さんが来賓あいさつ。元乗組員の大石又七さんや被災地・ロンゲラップ島民代表のアバッカ・アンジャインさんが訴え、フォトジャーナリストの森住卓さんが写真で核汚染を告発しました。

NPT再検討会議に呼応したニューヨーク国際共同行動に参加する宗教者や青年が次つぎと登壇。「世界の指導者たちに核兵器廃絶の思いを届けます」などと発言しました。

集会に先立ち午前中は久保山愛吉さんの墓前平和行進が行われ、1200人が参加しました。

